

季節はまさに春爛漫。桜の花が舞う中での入学行事です。

しかし、今、世界では、新型コロナウイルスのパンデミックにより、感染者数は約140万人となりました。また、40億人以上の人々、世界人口の半数を超える人々が外出制限を受けています。

日本でも、4千人を超える人が感染し、昨日、緊急事態宣言が発令されました。兵庫県立学校では、臨時休業を5月6日まで続けることが決定されました。このような状況で、お祝いの式典は慎むべきだとの認識で、すべての県立学校では、今日のこの行事を、入学式とは呼ばず実施しています。

このように、多大な不安や制約はありますが、それでも今日は、神戸高校が皆さんを迎え入れる記念すべき日であります。

先ほど入学を許可した、360名の皆さん、ご入学おめでとうございます。今日から皆さんは、兵庫県立神戸高等学校75回生の一員です。ようこそ神戸高校へ。私たち教職員、そして在校生は、皆さんを心から歓迎します。

明治から続く124年という長い歴史の中で、皆さんの先輩たちは、「質素剛健」「自重自治」の4つの校訓のもと、勉学、部活動、学校行事等のすべてのことに全力で取り組んでこられました。卓越した歴史と伝統、威風堂々とした学舎。皆さんが、神戸高校生になった喜びはひとしおであると思います。この感動を忘れず、充実した素晴らしい3年間を過ごして欲しいと願っています。そして、帰ってから、今日この場にお越しいただけなかった保護者の方々とも、感動を共有してほしいと思います。

ただ、せっかく入学しても、しばらくは、この神戸高校にほとんど登校できず、さぞもどかしいことだろうと推察します。しかし、制約のある中で、誰にも負けない底力を発揮するのが神戸高校生です。神高生らしい踏ん張りを見せてください。期待しています。

さて、現代、ICTやAI等の急激な進歩に伴い、未来を予測することが困難な時代を迎えています。皆さんには、進むべき先が見えにくい時代にあって、人々の先頭に立って藪をかき分けながら進む人のように、未来への道を切り拓き、自分の後に続く人々のため道を作っていく人になって欲しいと願っています。

そのために、皆さんに、この三年間、心にとどめておいてほしい三つのことを言います。

まず、第一に、積極的に学ぶ姿勢を持ち続けてほしい、ということです。

皆さんはこれから、しっかりと知識を蓄え、そしてまた、知恵を身につけていかなければなりません。知恵とは、知識を必要な場面で活用できる能力です。

昨今の社会情勢を見ると、新型コロナウイルスによる爆発的感染、地震、豪雨などの自然災害、エネルギー、環境などの諸問題、思想的対立、等、知識だけでは解決できない難しい課題がいくつも発生しています。だからこそ、知恵を持って考えることが必要です。解決に向けて一歩でも進んでいくことは、未来を切り拓く皆さんの使命だと思います。

第二は、部活動や学校行事、自治会活動に積極的に参加してほしい、ということです。いろいろなことに全力に取り組んでゆき、豊かな心と健やかな体を育ててください。ここ神戸高校では、皆さんが輝くことのできる様々なステージを用意しています。学校行事の多さはどこの学校にも負けていません。皆さんは、可能性の塊です。自分のまだ知らない自分の素晴らしい力を発見してほしいと思います。

今年は新型コロナの影響で、当面、本来の学校行事が実施できない状況にあります。しかし、皆さんが卒業するまでには、神戸高校の伝統ある、そして魅力的な、神戸高校らしい行事を堪能してもらえるようにしていくことを約束します。楽しみにしててください。

そして第三は、先ほど紹介した、本校の校訓「質素剛健」「自重自治」を実践してほしいということです。本校では、この四つの生徒が守るべき基本方針を、四綱領と言っています。

「質素剛健」は、真面目で実直、勇気あることです。「自重自治」は、自らの使命を重んじ、品性を保ち、自らが定めたことによって自らの行為を律することを言います。これこそが、長年引き継がれてきた、神戸高校生のあるべき姿なのだとすることを、忘れないでほしいと思います。

さて、本校では昔から、生徒たちのことを「鵬雛（ほうすう）」と呼んでいます。すなわち、おほとりのひなです。

この鵬は中国に伝わる伝説の鳥です。中国の古典によれば、とてつもなく巨大な鵬は、北の果てから、海上を三千里飛び、旋風に乗って九万里の高さに上り、南の果ての海へと向かうということです。転じて、大志を抱き、大事業をなそうとすることをいいます。本校に入学した皆さんは、いずれおほとりへと成長する、そのひなになったのです。

限りない可能性を持った皆さん、志を高く持って大空へ飛び立つ準備を、これから本校ですべてしてください。私たち教職員は、そのために、努力を惜しみません。

皆さんが、これから本校で充実した三年間を過ごし、ゆくゆくは鵬となって、日本へ、世界へ羽ばたいていかれることを祈念して、歓迎の言葉とします。